

# 老健 ほっかいどう

VOL.6

2019年6月

一般社団法人北海道老人保健施設協議会

特集

老健だからこそ取組みたい  
認知症高齢者へのアプローチ  
～認知症短期集中リハビリテーションの挑戦～



北海道札幌市  
時計台

施設紹介 「フォーシーズン南34条」「ナーシングヴィラ大谷地」

トピックス 2019年度リハビリ委員紹介

連載 第1回 研修地の魅力探訪 ～道南編～



# 特集

## 老健だからこそ取組みたい 認知症高齢者へのアプローチ

### ～認知症短期集中リハビリテーションの挑戦～



増え続ける認知症高齢者への対策として、老健がやるべきことは何か。認知症高齢者の現状と今後の国の施策の方向性を解説するとともに、道内老健の2つの事例を紹介します。

### 国の認知症施策の方向性

国内における認知症高齢者の数は、2012年で462万人、19年現在では500万人、25年には700万人と予測されています。80代後半ともなると4割が認知症となるため、2人に一人が認知症となる時代がやってきます。

そこで厚生労働省では、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指し、「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～」(新オレンジプラン)を15年1月に策定しています【図1】。

現在は、認知症に関する新たな大綱として、認知症の人にやさしい地域づくりを通じて「共生」の柱に、「予防」を新たに加え議

論を進めています。共生は、認知症になっても前向きに地域で暮らし続けることができるよう、周囲や社会が変わっていくことを求めるものです。これは、いわば「認知症バリアフリー」と呼べるものです。

一方、認知症の危険因子のエビデンスはある程度蓄積しつつあるものの、何らかの介入があれば認知症にならない、といった予防に通じるようなエビデンスは確立されていないのが実情です。そのため、予防の位置づけは難しい部分があります。

こうした面からも、早期発見・早期治療を重視し、地域への啓発や気軽に相談できる地域包括支援センター等を通じて必要な支援が受けられるような体制づくりを目指しています。認知症初期集中支援推進事業<sup>\*1</sup>や認知症疾患医療センターの整備<sup>\*2</sup>等は、そうした取組みの拠点として推進を図っていきます。

### 老健に期待する取組み

在宅支援・在宅復帰を目標とする老健施設には、やはり多職種が一つ所で連携して認知症高齢者にアプローチできるのが大きな強みではないでしょうか。認知症短期集中リハビリテーションは、その強みを生かした取組むプロセスに重きをおいた加算です。今後は好事例を集めて、推進できるようなサポートにも力をいれていきたいと考えています。

高齢者施設の中でも、老健は多職種連携によるケアの手法を得意とする施設。新オレンジプランの中でも進めている、認知症の行動・心理症状(BPSD)を有する人へのケアの効果を検証する認知症ケアレジストリ研究<sup>\*3</sup>には、ぜひ携わってほしいと思います。

今後も老健が、認知症の人が自らの意思に基づいた日常生活・社会生活を送るような意思決定支援も意識しながら、これまで以上に、高齢者の生活能力の維持向上に専門性を発揮できるよう期待しています。

<sup>\*1</sup> 複数の専門職がチームとなり、家族の訴え等により、認知症が疑われる人や認知症の人、その家族を訪問し、アセスメント、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的に行い、自立生活のサポートを行う  
<sup>\*2</sup> 地域のかかりつけ医や施設、介護事業者と連携し、認知症患者とその家族の診察や相談に応じる専門機関  
<sup>\*3</sup> 効果的な認知症ケアを確立するうえで、施設・事業所の登録を推進。認知症の人への介護モデルの普及啓発を図る

### お話をうかがった人



厚生労働省 老健局老人保健課 介護保険データ分析室長 新畑 覚也さん  
 厚生労働省 老健局総務課 認知症施策推進室長 田中 規倫さん

#### 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)の進捗状況及び今後の方向性

**策定経緯・取り巻く状況**

- 高齢者の4人に1人が認知症またはその予備軍とされ、今後も増加が見込まれる。
- 2014年の認知症サミット日本後継イベントにおいて、安倍総理の指示を受け2015年1月に新オレンジプランを策定。

**進捗・取組状況**

- 2017年7月に改定した数値目標(2020年度末)は15項目設定  
 認知症サポーターの養成 : 1,144万人(2019年3月末)  
 認知症サポート医の養成 : 8,000人(2018年3月末)  
 認知症初期集中支援チームの設置 : 1,739市町村(2019年3月末)  
 認知症カフェの設置 : 1,265市町村(約6千カ所)(2018年3月末) など
- 認知症サポーターの養成について、大人だけでなく小中学生にも広げると共に、認知症の方に関わることの多い業界(金融機関、交通機関、マンション管理など)でも拡大
- 本人・家族視点を重視した、認知症の当事者・家族の方による発信の拡充、社会参加の推進
- 成年後見制度利用促進基本計画に基づく施策の着実な推進
- 「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」を策定
- 新オレンジプランを契機に新たな取組を開始した自治体も多く、認知症の方とその家族を支援する地域資源は着実に増加

**今後の方向性**

- 厚生労働省が中心的役割を担い、引き続き「共生」を重視しつつ、「予防」の取組も一層強化し、車の両輪として取り組む。

共生

+

予防

【図1】 出典:厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室作成資料

# 巻頭言

## ～私の思う次代の老健～

一般社団法人 北海道老人保健施設協議会 幹事  
 医療法人社団刀圭会 介護老人保健施設アミニティ帯広、  
 介護老人保健施設アミニティ本別

長谷川 賢



北海道老健協幹事を仰せつかっておりますアミニティ帯広理事長長谷川賢と申します。

着々と進む高齢化の流れの中で、利用者の尊厳を守り安全に配慮しながら生活機能の維持向上を目指す私たち老健の存在意義は、ますます地域において重要な位置を占めるにいたっています。在宅支援や在宅復帰のため医療と介護の切れ目のないケアを独自にするのみならず、地域を巻き込み、より効果的かつ効率的なサービスを提供するため同業他社はもちろん民間企業や福祉機関などと連携し、利用者を支援できるよう地域社会と密接に関わりを持つことが求められるようになりました。

発想と発想の転換が重要だと私は考えます。全ての職員が理念や方針を理解して自施設の特徴を把握することに始まり、今何ができて何ができないのか。できないならどうすればいいのか。制度上のサービス以外に欲することは何かにいたるまで考え尽くさねばならない時代になったのではないのでしょうか。私たちは、地域の中で次代の老健の姿を見つけ出すために他と協働で保健に関わる「合わせ技」を創り出すことが必要になったと言えるでしょう。

変化する社会の流れに順応するために、個々職員の発想と発想の転換が今まで以上に必要になっていると私は感じています。

一方で、北海道における人口減少の流れは今後も進み、各都市高齢化率に示されているように生産年齢人口減少が顕著であること一目瞭然。その中で私たちは職員の充足をしなければなりません。地域の中での獲得合戦の様相を呈しています。

施設を運営するうえで最も必要なのは人です。まさに人財。特に若い世代の介護離れや介護に対する魅力が薄らいている状況下、いかにして現状を打破できるかが課題であることは言うまでもありません。

前述のようにこれからの時代、利用者のニーズを地域との密着な連携を持って創り出せる職場環境こそが人材確保の大きな一つの手段であると考えます。

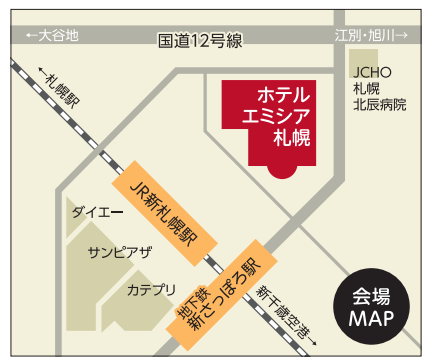
当会幹事として令和元年も平成を継承し、地域に根ざした次代の老健、そして活気ある施設職員を一人でも多く増やすために、職員間のネットワーク作りも含めて魅力あるセミナーや研修会が開催できるよう参加してまいります。令和元年度、一年間よろしくお願いたします。

## Information

今年も北海道老人保健施設大会が開催されます。多くの皆様のご参加をお待ちしています！

### <第27回 北海道老人保健施設大会>

- 【大会テーマ】 いざ新時代「令和」老健の幕開け ～地域の安心と信頼はここにあり～
- 【開催日時】 2019年10月25日(金)・26日(土)
- 【会場】 ホテルエミシア札幌 / 札幌市厚別区厚別中央2-5-5-25(TEL:011-895-8811)
- 【開催内容】 ●基調講演…講師 / 山崎 亮 氏(株式会社studio-L代表取締役)  
 ●特別講演…講師 / 根本 昌宏 氏(日本赤十字北海道看護大学看護学部教授)  
 ●演題発表・展示・懇親会
- 【大会事務局】 介護老人保健施設アートライフ恵庭(担当/齊藤)  
 TEL:0123-37-1511 / FAX:0123-37-1516



※今年から会場が変更になっておりますので、お間違いないようご注意ください。 ※大会参加、申込み及び登録は、当協議会のホームページからお願いします。



# CASE.1

医療法人盟侑会  
介護老人保健施設  
アートライフ恵庭

## 環境を生かしたリハビリと 地域連携でより良い生活を支援

### その人にあった 課題を設定し成功体験を 重ねて自信を回復

広大な自然と緑豊かなパークゴルフ場が敷地内に広がるアートライフ恵庭。認知症専門棟50床を有しますが、一般棟においても約7割にのぼる入所者が認知症です。認知症の入所者が在宅復帰につながるケースはまだ少ないのが現状ですが、同施設が認知症アプローチを実践するうえで大事にしているのは、「本人がやりたいことを実現できる支援を通じ、QOLの向上を目指すこと」です。

なかでも認知症短期集中リハビリテーション（以下、認知症短期集中リハビリ）には、2006年の創設当初から着目し、取り組

んでいます。「認知症高齢者に対する積極的な介入が介護報酬上で評価されたことで、モチベーションが上がりました」と事務部長の齊藤英樹さんは振り返ります。

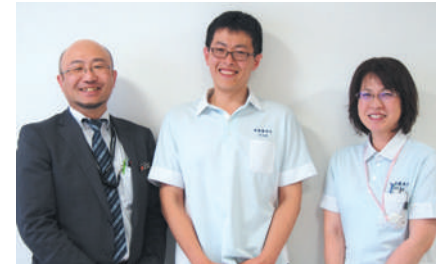
取組みにあたっては、メンバー全員で常時5名前後を対象者として実施。HDS-Rの評価により対象となった入所者に対し、興味関心チェックシートを手がかりに、対話に重きを置いたアセスメントを重ねて希望を引き出しています。

同施設が用意するプログラムはさまざま。読み書きや計算式などの学習療法では、市販の教材をもとに、認知機能の度合いをある程度レベル分けしたオリジナルの課題を作成。軽度の認知症であれば、本人が好きな小説の一場面を読んでもらい、それを振り返ることで記憶力を訓練するといった工夫をしています。

また、広い敷地を生かした園芸療法や散歩など屋外での作業療法も積極的に導入。作業療法士の平間健悟さんは、「農家の方が多い地域なので、普段は口数少ない方が水や肥料のやり方など畑仕事の経験を生き生きと話す様子を見ると、取組む意義を感じます」と話します。

アプローチのポイントは、「成功体験を重ねていかに自信をつけてもらえるかどうか」と平間さん。あらかじめ間違いを排除した「誤りなし学習」の考え方を基本にしなが、簡単過ぎず難し過ぎず、本人が達成感を得られる課題を提供できるよう注意を払っています。

### フロア配置のケアマネに リハビリ情報を共有



▲左から齊藤さん、平間さん、橋本さん

認知症短期集中リハビリの実施期間は3ヶ月ですが、入所者のなかにはリハビリが習慣化され継続しているケースもあります。これを可能にしている鍵は、フロアに配置されたケアマネジャーです。「リハビリを継続するためにはフロアの介護職員との連携は欠かせません。ただし介護職員は時間に追われていることが多いので、フロアに常駐して情報を統括するケアマネジャーに共有を図っておくのが確実です」とリハビリ科長の橋本郁子さんは説明します。

今後についても「施設内での連携づくりを意識して行っていきたい」と橋本さん。平間さんは、認知症短期集中リハビリの介入が終わった入所者へのフォローに取組みたいと話します。「小集団グループとしてリハビリアプローチを行い、互いに励ましあったり、競争意識を燃やして意欲ややりがいを引き出すようなアプローチを行うのが目標です」

# CASE.2

北海道勤労者医療協会  
老人保健施設  
柏ヶ丘

## 入居専任の作業療法士が 介護職と連携してリハビリを提供

### 自宅での生活を見据え 買い物訓練も実施

柏ヶ丘では、2019年4月から理学療法士を中心としたリハビリテーション科のうち、作業療法士1名と理学療法士2名が入所専任となり、認知症短期集中リハビリに取り組んでいます。中心となっているのは、法人病院の回復期リハビリテーション病棟での経験を積んだ、作業療法士の光武玲さんです。

「対象になる方と関係性を築くことのできる貴重な時間になるよう取り組んでいます」

常時6名から10名ほどの対象者に、本や手作りのグッズを使った学習療法や昔の写真を見せながら発語をうながす回想療法を行ったり、退所先となる自宅や施設での暮らしを見越したリハビリを行っています。

超強化型を算定する同施設。在宅復帰をする入所者は多く、その中には認知症短期集中リハビリ対象者もいます。これまでに、退所後に独居を望む対象者に行った事例として、スーパーのチラシを見て下調べをするところから商品の選び方や金銭管理、自宅から目標の場所に通うルートの確認、集団生活に対応するための時間管理などの訓練を

行ったケースもあります。いずれにしても、本人の目標に合わせてプログラムを立て、ときには週3回以上リハビリを提供し、目標達成を目指しています。

多様なニーズを叶えるために、ケアワーカーとの情報共有を密に行い、時には一緒に評価しながらリハビリやケアを実践しています。セラピストがフロアに配置されたことで、より連携が活発化したと同時に、対象者の生活を把握したうえでベストなタイミングを見計らったリハビリ介入ができていますと光武さん。

「特に排泄や食事に関連するリハビリになると、対象者の生活を最も把握できているのはケアワーカーです。対象者の夜間の様子をヒアリングしたり、逆にリハビリ視点でケアのアドバイスをすることもあります。でも何より、入所者にとって無理なく、効果的にリハビリを提供できるようになったのは最も大きな変化です」



▲課題と同様の色や構成となるようペグを配置してもらった脳トレグッズ

### 法人全体で継続フォロー 評価スケールの見直しも

超強化型施設として、在宅復帰をする入所者が認知症短期集中リハビリの対象者も含めて多数いる同施設。退所者へのアフターフォローは、法人が提供するサービスを通じて切れ目ない支援を続けています。退所後にデイケアや訪問リハビリを利用する人もいれば、併設クリニックで診察の対象となる人もいるため、異変はどこかでキャッチする体制が整っています。なかには退所後にデイケアでリハビリを続け、再び入所して認知症短期集中リハビリを集中的に受ける往復型利用の人もいます。

認知症短期集中リハビリにおける今の課題として、算定後にいかに継続性と評価スケールを検討する必要性を指摘する光武さん。

「現在のようHDS-Rの評価のみならず、認知症行動障害尺度(DVDスケール)や意欲の指標(Vitality Index)など生活全体を評価する指標も組み合わせ検証することで、エビデンスを確立したいですね」



光武 玲さん

学習療法の課題  
足し算と引き算を混ぜた

月	日	曜日	名前				
224	+	29	=	388	+	71	=
942	-	69	=	578	-	46	=
306	+	89	=	570	+	58	=
696	-	12	=	137	-	33	=
342	+	32	=	915	+	69	=
359	-	59	=	99	-	43	=
341	+	16	=	491	+	54	=
273	+	50	=	889	+	24	=
712	-	45	=	694	-	29	=
672	-	51	=	360	-	66	=
808	+	51	=	662	+	13	=
870	+	9	=	620	+	34	=
109	-	46	=	959	-	98	=



▲施設前の畑で実施する園芸療法



▶認知症サポート医、認知症地域支援推進員らと会議で事例を検討

### ● 認知症初期集中支援チームの活動で在宅の認知症高齢者への理解が促進 ●

アートライフ恵庭では、2018年から恵庭市の認知症初期集中支援チームの事業を受託しています。2年目を迎えた現在は、看護師の森川晃代さんと主任ケアマネジャーの谷口美穂さんが担当となり、地域包括支援センター等を通じて相談が寄せられた対象者宅を訪問してアセスメントを行い、支援内容を計画、活動を進めています。初年度は40件あった相談のうち、19件のケースに対応しました。

これまで居宅のケアマネジャーだった谷口さんは、「今までのよ

うに相談を受けて即、何らかのサービスに結びつくことはありません。ご本人がどうしたら生活の楽しみを見つけられるかを一緒に考えて、自信を取り戻してもらえるかを常に考えています」と意識の変化を話します。「地域包括支援センター等と協力をすることで地域から何が求められているのかが把握できますし、自宅で過ごす認知症高齢者の生活にも理解が深まりました」とは森川さん。さらに、「これを老健のなかでもケアや在宅復帰の取組みにつなげていきたいですね」と意欲を語ります。





トピックス

# 2019年度 リハビリ委員紹介



## リハビリに関する相談受付中です!

リハビリ委員が行っている活動は、主に道老健協が主催する各研修の企画と実施です。今後は、各エリアでリハビリ職対象の研修等を企画できるよう働きかける予定です。

また、老健で働くリハビリ職のリハビリに関する悩みや相談等も受け付けています。各エリアの委員へメールでお寄せください。

“堂々と、丁寧に”が今年の私のテーマです。

### 道南エリア 担当



愛犬に毎日散歩に連れて行ってもらっています。

理学療法士  
**佐藤 美知子** (さとう みちこ)  
所属 老人保健施設 ゆとりろ  
E-mail michikos@takahashi-group.jp

### 道北エリア 担当

理学療法士  
**後藤 航** (ごとう わたる)  
所属 老人保健施設 サニーヒル  
E-mail wataru\_goto@a-fukushi.or.jp



委員長

道北エリア

道東エリア

道央エリア

道南エリア

猫と一緒に眠ることに幸せを感じます。

### 道東エリア 担当

作業療法士  
**廣部 広美** (ひろべ ひろみ)  
所属 介護老人保健施設 アメニティ帯広  
E-mail hirobe@toukeikai.or.jp



副委員長

### 道央エリア 担当

休みの日は孫たちの相手をしています。

理学療法士  
**橋本 郁子** (はしもと いくこ)  
所属 ① 老人保健施設 アートライフ恵庭  
E-mail art-reha@artlife-eniwa.jp



休みの日はパン屋めぐりをしています。

作業療法士  
**川添 裕美** (かわぞえ ひろみ)  
所属 ② 介護老人保健施設 ひまわり  
E-mail hiromi\_kawazoe@houseikai.or.jp



副委員長

GOLFのドライバーが得意です。

理学療法士  
**吉田 哲也** (よしだ てつや)  
所属 ③ 介護老人保健施設 浦河緑苑  
E-mail t-yoshida@sanseikai-med.jp



所属

E-mail

// 皆さん、どうぞよろしくお願ひします! //

## 職員の自主性を引き出す新しい老健を目指す 医療法人社団栄会 介護老人保健施設 フォーシーズン南34条

2017年10月に開設したフォーシーズン南34条。開設準備室のメンバーとして、職員確保や利用者の獲得などに携わってきた事務長の西崎正道さんは、「職員が自身のそれぞれの経験を生かし、やりたいと思うことに積極的に取り組める自主性を尊重した施設を目指したい」と決意を新たに話します。その言葉通り、少しずつユニットや部署において独自の取組みがはじまっている同施設。ユニットチーフの金井直樹さんは、ケアの質を担保するための「24時間

シート」の導入を開始しました。これは入所者の日課や趣味、サポートが必要な事項等を記載しておくことで、どの職員であってもいつでも同じケアを提供できるようにするため、目標をその都度確認できてケアの質向上に役立っています。今後は全ユニットに取り入れていきたいと金井さん。

また、看護部門が中心となり、看取りにも注力しています。看護師長で介護部門も統括する福井多恵子さんが緩和ケア病棟で培った経験を基に、これまで4名を看取りました。「お看取りを実践するには、ご本人や家族の望みを一番考え、職員同士で意見を出し合って進めるのが大事です」と福井さん。同時に、こうした介護や看護、リハビリにおける記録は一つのシステムで一括管理をし、多職種での情報共有を円滑にしています。

毎日、入所者の家族や友人などが多く訪



並べられた商品を吟味する入居者。移動販売を心待ちにしている人も多い

れる同施設。その誰もが満足できるようにロビーにご意見箱を設置し、寄せられた要望にサービス委員会が中心となって可能な限り対応を検討しています。移動販売の実施はそうした声から実現した一つ。「職員やご家族など色々な方の声を取り入れながら、新しいことに挑戦していきたいですね」(西崎さん)

- 住所/札幌市南区南34条西10丁目3-35
- TEL/011-581-1200
- 入所定員/80名、通所定員/30名



左から金井さん、福井さん、西崎さん、ケアマネジャーの後藤さん、管理栄養士の金刺さん

## ろうけん 拝見!

北海道内の会員施設をご紹介します

## 支援相談員を中心に訪問指導を強化中

医療法人重仁会 介護老人保健施設 ナーシングヴィラ大谷地

併設病院とともに地域の認知症高齢者を支えるナーシングヴィラ大谷地。現在、施設をあげて注力しているのが在宅強化型としての取り組みです。算定から3ヶ月が経過するなかで、特に重視しているのが支援相談員とセラピストを中心とした入退所前後の訪問指導で、本人の希望や家族の介護力の確認、家屋調査など、細かなアセスメントを実施しています。あわせて、在宅復帰後は支援相談員から「体調にお変わりないですか」「何かあったら遠慮なく相談してくださいね」といった小まめな連絡を入れるほか、ケアマネジャーとの情報共有を通じ、利用者家族のアフターケアを継続しています。

支援相談員は山本隆文さんと山本雅之さんの2名体制。限られた人員と時間のなかでの訪問指導は大変な一方、「在宅復帰が叶ったときの本人やご家族の笑顔がやりがいになっています」と山本(隆)さん。山本(雅)さんは、「ケアパス等を活用しながら、



前列左が木戸口さん、後列左から山本(隆)さん、大泉さん、山本(雅)さんとセラピストの皆さん

もっと全職種で取組めるよう働きかけたい」と意欲を見せます。

こうした取組みに加え、地域に向けた認知症の啓発にも力を入れている同施設。併設病院に設けた認知症患者サポートセンターにおいて隔月で「認知症家族の会」を主催し、当事者からの情報提供や家族同士の交流を深めています。看護師長の木戸口忍さんは、「認定看護師が新たに入職したこともあり、これまで以上に地域への啓発や職員教育も推進したい。老健が、本人だけ

でなく、ご家族にとってのレスパイトの役割も果たす場であることも周知していきたいですね」と言います。

当面の大きな目標は在宅強化型の維持。事務長の大泉和聖さんは、「ベッド回転率を上げ、入所者さんが『また来たい』とリピートしたくなる老健を目指したい。その先に、超強化型も見据えられれば理想です」と展望を話します。



リハビリは多職種との意見交換を大事に行っている

- 住所/札幌市厚別区大谷地東5丁目7-10
- TEL/011-892-3737
- 入所定員/100名、通所定員/20名



第1回

# 研修地の魅力探訪

## せっかく ですから…

～道南編～



研修がてら、その土地の魅力に触れてみませんか。  
地元民だからこそ知るおすすめスポットを紹介します。

「ふるかわ」ではなく「こがわ」といいます。  
函館出身ではありませんが、22年以上函館市民をして  
いますので、大分地元目線ではあると思います。

案内人 古川 和也

介護老人保健施設  
グランドサン亀田 事務長

作業療法士として精神科領域で13年、老健で8年勤務。  
青森県平川市出身。趣味はキャンプ、アウトドア。

# 食べる



## ⑥ ジョリージェリー フィッシュ

1982年創業、函館市民に愛され続けるアメリカンダイナー「Jolly Jellyfish (ジョリージェリーフィッシュ)」。"ジョリージェリー"の愛称で呼ばれ、「ステーキピラフ」略して「ステビ」で有名な店です。

## ⑦ カリフォルニア・ベイビー

函館市民から「カリベビ」の愛称で30年以上親しまれているお店で、GLAYのメンバーの行きつけとしても有名。名物はボリューム満点のシスコライス。山盛りのバターライスの上にグリルしたソーセージ、濃厚なミートソースがたっぷりです。

## ① 裏夜景

函館山の夜景を逆から見た夜景です。函館市街地の灯りの先に函館山がぼんやりと見えます。灯りが近く、横に広がっているので迫力がありますよ。

# 見る



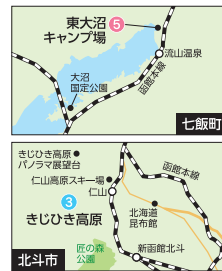
## ② 大森浜

研修会場すぐ

函館駅前の通りを真っ直ぐ行くと大森浜に出ます。右を見ると立待岬、天気が良いと正面には青森県の下北半島が見えます。石川啄木が愛した浜でもあり、「啄木小公園」もあります。

## ③ きじひき高原

新函館北斗駅がある北斗市にあり、展望台からの景色は圧巻！右には函館市と七飯町の街並み、函館山、津軽海峡が見え、左には駒ヶ岳と国定公園の大沼が見えます。キャンプ場もあるので天気が良ければ夜景を楽しむことも出来ます。



# 体験する

## ④ 函館山登山

函館山はロープウェイを利用する観光客が多いのですが、ここは登山がおすすめ。函館山は334mですのでハイキング感覚で登れます。ルートも複数あり、勾配や景観も全然違います。歴史的背景を勉強してから登ると面白さは倍増。ちなみに熊はいませんがマムシはいますのでご注意ください。



## ⑤ 東大沼キャンプ場

七飯町の大沼国定公園の湖畔にあるキャンプ場。シーズンになると大変混み合いますが、無料とは思えない景観と設備が素晴らしい、道内屈指のキャンプ場だと思います。

函館ゆかりの有名人も大勢いますから、その方々の足跡を辿るのも面白いかもしれませんね。

7月1日・2日函館市

職員研修会でお会い  
しましょう！

# 事務局通信

## 委員会も活動しています！

私たちリハビリ委員は現在6名で構成されています。研修の企画やサポートが主な役割ですが、今年度からリハビリに関する相談を受け付けることとなりました。新人や若手あるいは仲間作りの難しい環境にあるセラピストに対し、何かお役に立てることがあるのではないかと思います。私たちもまだまだ未熟なところが多々ありますが、皆さんと共に研鑽していきたいと考えております。

(老人保健施設サニーヒル/後藤 航・リハビリ委員会委員長)

皆さん、こんにちは。北海道老健協事務局の組織の1つとして、15年前に看護介護委員を立ち上げました。当時は各老健の看護師4名(認知症介護指導者)が職員の質の向上を目標に年1回の研修会を実施し、講師を務め現在の研修会の礎を築いてきました。介護職員不足、外国人介護人材の受け入れなど大きな課題がありますが頑張っていけたら良いですね。研修会へのご意見やご協力をよろしくお願いたします。

(介護老人保健施設アートライフ恵庭/中村 君代・看介護委員会委員長)